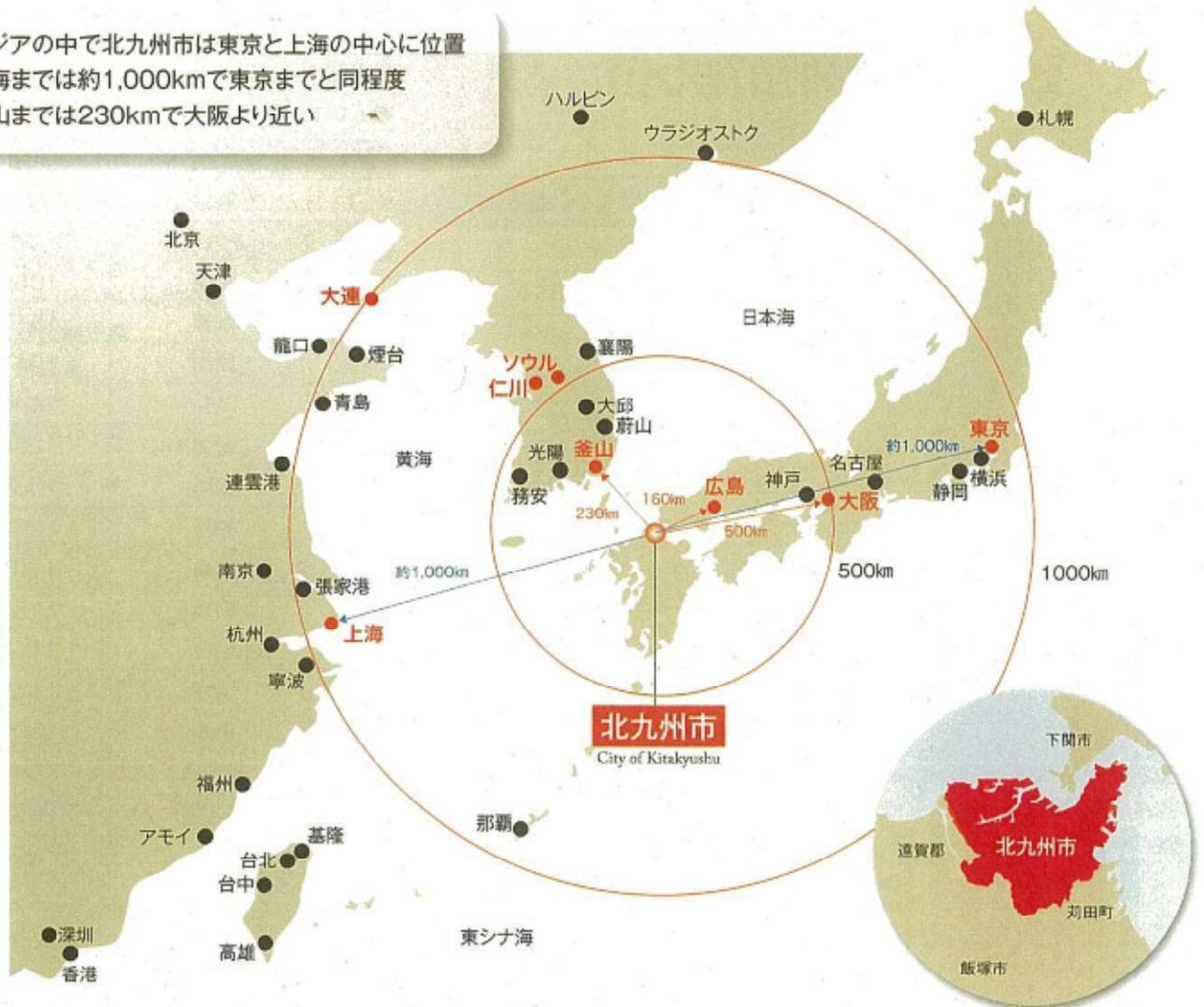


## 最高のロケーション

経済成長の著しいアジアの国々。

北九州市は、アジアの玄関口と呼ぶにふさわしい立地環境にあり、アジアのマーケットをにらんだ生産・物流の拠点として注目されています。

- アジアの中で北九州市は東京と上海の中心に位置
- 上海までは約1,000kmで東京までと同程度
- 釜山までは230kmで大阪より近い



## 安定的な操業が可能な都市 北九州市

北九州市の「ものづくり」の歴史は、筑豊からの石炭と中国からの鉄鉱石の原料調達に優れた地理性、また地震等の災害が少ないというBCP(事業継続計画)の観点から、官営八幡製鐵所の立地が決定したことに始まりました。1901年に操業を開始した官営八幡製鐵所は、現在に至るまでの1世紀以上もの間、24時間365日ノンストップで稼働しています。

北九州市は、日本の高度成長を産業面で支え、近年は、素材型産業のノウハウを活かした機械・金属加工産業や自動車関連産業、そして環境エネルギー産業など様々な企業が集積しています。

また、災害低リスクエリアという優位性から、BCPやサプライチェーン維持の観点から、データセンターや物流関連企業の進出も続いています。



### 市の基本データ (令和4年2月1日)

- 人口 .....929,113人
- 世帯数 .....435,916世帯
- 面積 .....491.71km<sup>2</sup>
- 気温(年間平均) .....17.2℃(令和3年)
- 年間降水量 .....1551.0mm(令和3年)

出典: 北九州市HP「とうけい北九州」

## 充実した物流インフラ

北九州市は、本州と九州の結節点に位置し、本州、東九州、西九州の3方向に伸びる陸上アクセス網が発達しています。また、瀬戸内海と日本海に面した東西2つのコンテナターミナルのほか、フェリー・RO-RO船、在来船に対応する多彩な港湾施設、24時間利用可能な海上空港や鉄道貨物ターミナルなど、陸・海・空の物流インフラが充実しています。あらゆる輸送モードに対応できるため、Sea & Sea、Sea & Rail、Sea & Air など複合一貫輸送も可能です。



## 国内外を視野に入れた、複合型物流拠点。

アジアに開かれた地の利を活かしつつ、高性能な物流ネットワークで各種ビジネスをサポートします。



### 1 太刀浦コンテナターミナル

「PORT MOJI」として世界的にも長年親しまれている、西日本有数のコンテナターミナルです。豊富な航路網と地理的優位性を活かし、アジアのゲートウェイとして充実した物流サービスの提供に努めています。



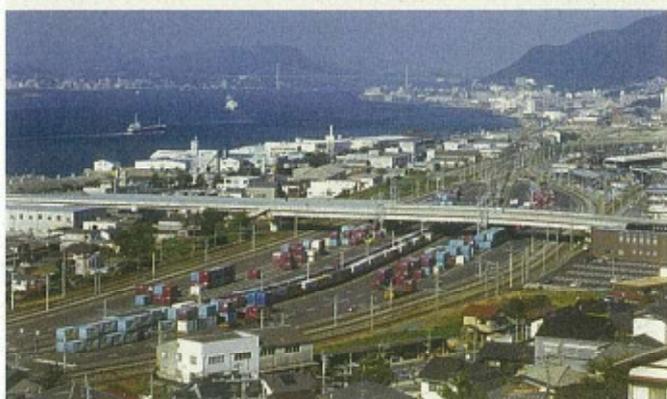
## 2 ひびきコンテナターミナル

2005年に供用開始し、オーバーバナマックス型の大型コンテナ船も入港可能な大水深岸壁(-15m)を持つ高規格ターミナルです。背後にある広大な産業用地には、物流施設や工場の立地が加速しています。



## 4 新門司フェリーターミナル

西日本最大級のフェリー基地として、関西へ毎日4便、関東(東京(徳島経由)/横須賀)へ毎日2便(日曜を除く)のフェリーと、名古屋等へ週7便のRORO船が運航されているため、大消費地との多頻度輸送が可能です。



## 6 北九州貨物ターミナル駅

最新の設備を持つ鉄道貨物駅として、日本全国の駅を結ぶ鉄道輸送の拠点で、貨車に載っているコンテナを本線上の列車から直接積降する着発線荷役(E&S)方式の導入で時間短縮が可能になりました。



## 3 田野浦ROROターミナル

約2,000台の自動車載置能力を有し、中古自動車の輸出基地として、主にニュージーランド向け自動車専用船(PCC)が寄港しています。また、RORO船による精密機器の国際輸送拠点としても活用されています。



## 5 小倉(浅野)フェリーターミナル

都心に近くJRへのアクセスも良く、利便性に優れたターミナルです。四国(松山)へ毎日1便のフェリーが運航されています。



## 7 北九州空港

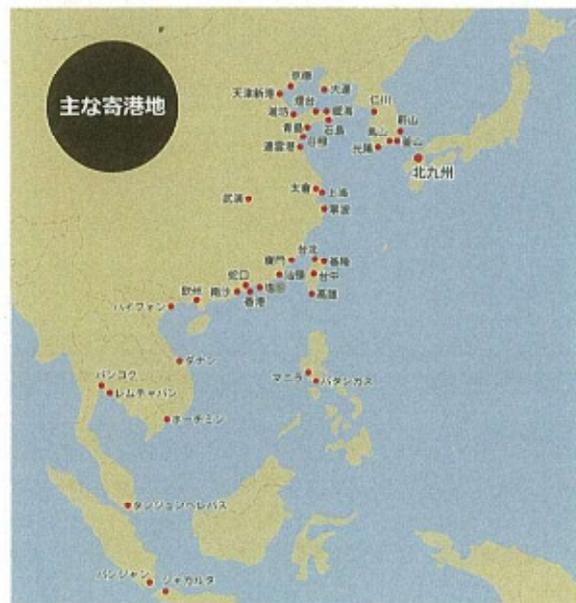
24時間利用が可能な海上空港です。九州・中四国で唯一、貨物定期便が運航され、シーアンドエア輸送が可能です。小口貨物から大型・特殊貨物まであらゆる貨物の輸送に最適です。

## 豊富な国際定期コンテナ航路網

中国、韓国、台湾を中心にアジア各国の港と密に結びついているのが北九州港です。また、このほかにもフィーダー接続によるネットワークで全世界と結ばれています。

国名・地域	航路数	便数/月
東南アジア	7	28
台湾	4	14
中国	15	62
韓国	8	40
計	34	144

(令和4年3月1日現在)



### 太刀浦コンテナターミナル 歴史ある西日本有数のコンテナターミナル。



#### 施設概要

区分	太刀浦 第1 コンテナターミナル	太刀浦 第2 コンテナターミナル
供用開始	昭和54年	昭和62年
岸壁・延長	658m(取り付け部含む)	555m
水深	-12m	-10m
ターミナル総面積	161,500㎡	161,547㎡
コンテナクレーン	4基	3基
ストラドルキャリア	15基	11基
蔵置能力	6,424TEU	4,152TEU
冷凍コンセント	400V×95	400V×96, 200V×36

### ひびきコンテナターミナル 大型船の寄港に適した大水深岸壁(-15m)を有するコンテナターミナル。



#### 施設概要

区分	ひびきコンテナターミナル	
供用開始	平成17年	
岸壁・延長	350m×2	170m×2
水深	-15m	-10m
ターミナル総面積	39ha	
コンテナクレーン	3基	
ストラドルキャリア	7基	
蔵置能力	22,464TEU(4段積み)	
冷凍コンセント	400V×324	

## フェリー・RORO船輸送網

環境に優しくモーダルシフトを可能にする輸送網で、東京・関西方面や名古屋・沖縄などの多頻度輸送が可能。内航フェリー・RORO船で輸送される貨物量は、北九州港全体の約半分にも及びます。

### 関東、関西、名古屋等とのフェリー・ROROネットワーク

#### 新門司地区

西日本最大級のフェリーターミナルである新門司からは、関西（大阪南港、泉大津、神戸）へ毎日4便、関東（東京/横浜）・四国（徳島）へ毎日2便（日曜除く）のフェリーが運航されています。（阪九フェリー・名門大洋フェリー・オーシャントランス・東京九州フェリーにより運航）

新門司フェリーターミナル



阪九フェリー、オーシャントランス、東京九州フェリー



名門大洋フェリー

#### 小倉（浅野）地区

小倉（浅野）地区からは、四国（松山）へ毎日1便のフェリー（松山・小倉フェリー）が運航されています。



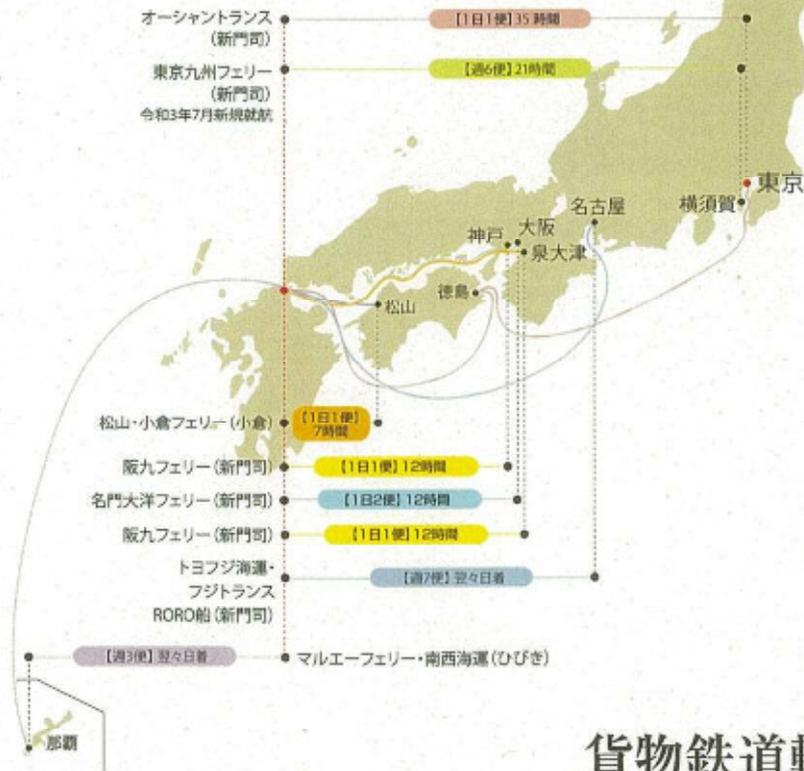
小倉（浅野）地区

#### 響灘地区

響灘地区からは沖縄へ週3便RORO船が運航されています。（マルエーフェリー、南西海運）



新門司地区は、完成自動車の物流拠点として、広大なモータープールを擁しています。現在、名古屋方面に週7便のRORO船が運航されています。（トヨフジ海運・フジトランスコーポレーションにより運航）



## 貨物鉄道輸送網

### 北九州貨物ターミナル駅

北九州貨物ターミナル駅は、福岡、熊本、鹿児島方面と大分、宮崎方面の結節点となる九州の拠点貨物駅です。

#### ■24時間体制の国内輸送ネットワーク拠点

北九州市の鉄道輸送拠点である「北九州貨物ターミナル」は、本線上の列車から直接積み降ろし可能な「着発線荷役方式」を採用することにより、迅速な荷役作業が可能です。長編成列車（26両）に対し、40ftコンテナ、35トンまでの貨物を扱うことができる駅のひとつでもあり、全国のコンテナ取扱駅との豊富なダイヤにより、国内貨物輸送のネットワーク化を実現しています。

#### ■環境にやさしい鉄道貨物輸送

大型海上コンテナ専用ホームを有する北九州貨物ターミナル駅では、アジアから海上距離が短い北九州港の特性を生かした「Sea&Rail」が行われています。トラックのCO<sub>2</sub>排出量の約11分の1といわれる鉄道輸送により、環境負荷を軽減する輸送を実現します。

## 北九州港と川崎港の規模及び港湾統計の比較について

## 1 港湾区域と臨港地区の規模

項目	北九州港	川崎港
港湾区域	17,638 ha (全国4位)	3,298 ha (全国49位)
臨港地区	3,717 ha (全国2位)	2,053 ha (全国7位)
岸壁延長	21,048 m	4,491 m

## 2 北九州港と川崎港のコンテナターミナル (CT) の状況

項目	北九州港			川崎港
	太刀浦 CT	ひびき CT	合計	川崎港 CT
CT 名	太刀浦 CT	ひびき CT	合計	川崎港 CT
ヤード面積	32 ha	39 ha	71 ha	24.5 ha
岸壁延長	1,213 m	700 m	1,913 m	431 m
岸壁水深	-12m、 -10m	-15m		-14m
ガントリー クレーン	7基	3基	10基	3基